

学校だより 北 陵

川西市立北陵小学校
校長 齋木 久雄

向春の候、保護者の皆様方にはご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、3学期がスタートして3週間が経過しましたが、始業式（学校便り）で私の定年の事をお知らせしてから、多くの児童や保護者、そして地域の方からも、驚きと共に「来年度も居て欲しかったのに残念です」との有り難いお言葉を沢山頂戴し、とても感激しています。1月の朝会では校長講話がありませんでしたので、以下に私が最近読んだ本の中から、「子育ては、10歳が分かれ目」高濱正伸著（PHP文庫）の一部を紹介します。

プロローグ～＜問題のない思春期こそ大問題＞より抜粋

小学校高学年から中学校にかけての、子どもから大人へと大きく変化を遂げる時期は、わが子の目覚ましい成長に喜びが多い反面、悩みの尽きない時期でもあるのです。特に思春期の入口である10歳の頃は、今までの子育てが急に通用しなくなったことに大いに戸惑うようです。（中略）

親への甘えの中で育っている子どもたち。その背景には、当然ながらわが子をいつまでも子ども扱いし、過保護、過干渉を続けている親たちがいます。

オタマジャクシがカエルに変わるくらい大きく変化するのが思春期なのです。そんな時期に、親が子どもに幼少期と変わらない接し方を続けているとどうなるでしょう。子どもはいつまでも親がかりで、大人になるための芽を摘み取られてしまい、「自分」を出すきっかけをつかめなくなります。本人は悶々としているはずですが、甘やかしてもらえるのは楽でもあるので、よほどの自立心やパワーがないと、その状態がいつまでも続いてしまいます。

子どもを一人前の大人にするには、思春期を境に、子育てのあり方を抜本的に変えなければなりません。ある時期が来たら、寂しいことかもしれませんが、決然と子離れし、これまでとはまったく違う接し方で導いていかなければならないのです。（中略）

同性の親が、生きていく上での知恵と知識を伝授していくことが、10歳からの子育ての重要な鍵になる・・・これが、本書の柱です。

第1章＜「男女の違い」を知れば家庭は変わる＞より抜粋

子育て中のお母さんたち、お父さんたちに、くれぐれもよく考えてほしいのは「子育てのゴールはどこか」ということです。それは子どもをいい大学、いい会社に入れることではないはずです。まわりの人に慕われ、友だちや家族と楽しくやっていける、社会性と魅力のある人物に育てることこそ、子育ての目標ではないでしょうか。

それには、何があっても笑顔で乗り越えていける「人間力」あふれる人物に育てる事が大切です。

幼少期には、母親が中心となって子どもを愛情深く育てる。

思春期には、同性の親が子どもの成長をしっかりサポートしていく。（中略）

どんなトラブルも必ず成長の糧になります。トラブルからわが子を守ろうと家の中に抱え込むのではなく、どんどん外に出し、大変な経験や、ときにはつらい思いもさせてください。そして、つらそうに見えるときも安易に手を出さないことです。そんなときこそ子ども

は大きく成長しているのですから。

第2章 <10歳の「子離れ宣言」からの育て方>より抜粋

オタマジャクシ時代からカエル時代に移る変わり目が9歳から11歳で、オタマジャクシに手足が生えている、なんとも中途半端な姿がこの時期の子どもです。これまで通用していた「子どもだまし」が急に効かなくなり、扱いが難しくなるのがこの時期の子どもで、いわゆる「反抗期」の入り口に立ったのです。

それまで「ママってすごい」「パパってかっこいい」と無邪気に言っていた子ども達が、この時期から、親も実はたいしたことがないんだと気が付き始めます。そして大人の矛盾や不完全さを「上から目線」で鋭く突いてくるようになります。「はい」という素直な返事もなくなり、「はい、はい」と気乗りしなさそうな生返事で応じる事が増えます。口数も減り、たまに口を開けば、屁理屈や生意気ばかり。親にしてみれば「一人で育ってきたような口を利いて!」と言いたくなるころですが、子どもの耳にはそんな言葉は届きません。

ここで多くの親は、「子どもが悪い子になった」と悩むのですが、それはとんでもない誤解です。反抗も生意気も大いにけっこう。健全に成長している証拠です。今まで通りの素直で無邪気な子のままでいるほうが、かえって心配なくらいです。

親をないがしろにし始めるので、親としての自信を失って落ち込む人もいますが、それも違います。本当は今までのように親が大好きだし、必要としているのです。親をないがしろにして見せるのは、それ以上に、親から精神的に自立したい気持ちが強いからです。

子どもの反発は、小4・小5と学年が進むにつれて、どんどん激しくなっていきます。「ぼく(私)のことは口出ししないで!」というようなことも言い始めます。特に男子に顕著で、お母さんの干渉をやたらといやがるようになります。

そのくせ、ときには幼い子どものように甘えてきたり、しくしく泣いて見せたりもする。オタマジャクシからカエルに移行する小3から小5は、その繰り返しです。おそらくこの時期の子どもたちは、カエルになるための練習を、一生懸命にしているのでしょう。

第3章<お母さんの役割>より抜粋

子どもにとってお母さんは、とてつもなく偉大な存在です。男の子にとっては女神ですし、女の子にとっては生き方のモデルです。子どもたちはみな、お母さんに「がんばったね」「すごいじゃない」と笑顔で言ってもらいたい一心で生きているのです。(中略)

そんな子どもも、思春期になるとお母さんを遠ざけ始めます。でも実は、相変わらずお母さんが大好きで、ほっとできる心の拠点にしているのです。何事にもお母さんの笑顔見たさに頑張る点も変わりません。だから自信を失わずにいてください。(中略)

子どもはお母さんの笑顔が大好き。お母さんのニコニコ笑顔が見たい一心で、どんなことも頑張ります。お母さんが幸せそうな笑顔で暮らしていれば、自分も幸せ。この世界は大丈夫だという安心感を覚えます。

反対に、お母さんがビクビク、イライラしながら暮らしていると、子どもも不安な気持ちになります。この世が安心できない場所に思え、おどおどした子どもになってしまいます。

そのくらい、特に幼少期の子どもにとって、お母さんの影響力は大きいのです。ですからお母さんは、できるだけ笑顔でいてください。そして何があっても動じず、でんと構えていてほしいものです。

第4章<お父さんの役割>より抜粋

家事や育児のこまごまとしたことに手を貸すことも大事。しかし、私がそれ以上にお父さんたちに頑張ってほしいのは、お母さんの精神面をサポートすることです。<裏面に続く>

お母さんの心が健やかでいられるようサポートするという役割が、現代のお父さんたちに強く求められているのです。

気持ちが安らいでいれば、お母さんはいつも笑顔でいられ、子どもにとっての「お母さん像」も常にいい状態を保てます。そのためにお父さんは自分がどうしたらいいのかを、かなり意識的にプロデュースしていく必要があるでしょう。

具体的にすべきこととして、私がお父さんたちに一番お勧めしているのは「妻の話を共感しながら聞く」ということです。(中略)

お父さんにとって、妻の話を聞くということは実はハードルが高い作業になってしまっているのが現状のようです。

ただ、どんなに忙しくて億劫に感じたとしてもやってほしい「妻の話を共感しながら聞く3つのコツ」があります。ぜひやるべきです。

①妻の話を「そうだね」とうなずきながら聞く。

②「今日はすごく大変だったの」と妻が言えば、「そう、すごく大変だったんだね。お疲れ様」とオウム返しする。(もしくは言い換えをする)

③毎日「いつも頑張っているね。ありがとう」とねぎらう。

この3つがお父さんにできれば、お母さんたちもだいふ癒されます。

※上記は、高濱正伸さんの著書「子育ては、10歳が分かれ目」から、私が「なるほど」と思った部分を抜粋して紹介しました。日々の子育ては、本に書かれている通りに上手いかわなくて当然だと思いますが、今後の参考にして頂ければ幸いです。

<2月の行事予定>

日	曜	行事予定	日	曜	行事予定
1	金	朝会、PとTとのスポーツ交流会 定時退勤日	16	土	
2	土		17	日	
3	日		18	月	委員会活動
4	月	ふれあいタイム(最終)	19	火	
5	火	5年校外学習	20	水	
6	水		21	木	
7	木		22	金	授業参観・学級懇談(3～5年) ファミリー遊び、定時退勤日
8	金	定時退勤日、2年東谷小と交流	23	土	
9	土		24	日	
10	日		25	月	授業参観・学級懇談(1・2年)
11	月	建国記念日	26	火	
12	火		27	水	3年校外学習
13	水		28	木	6年校外学習
14	木				
15	金	4年校外学習			

<3月の行事予定>

1日(金) 入学説明会 4日(月) 6年生を送る会・ファミリーランチ 5日(火) 6年生お別れ会 6日(水) 卒業式練習開始 8日(金) 朝会(東日本大震災を伝える会) 11日(月) 地区児童会 15日(金) 給食最終日 18日(月) 卒業式準備 19日(火) 卒業式 22日(金) 大掃除4h 25日(月) 修了式